

下水道コンクリート構造物の腐食抑制技術及び防食技術マニュアル（平成 29 年 12 月） 正誤表

頁	箇所	正	誤
59	5. 5. 4	(3) 断面の修復に使用するセメントモルタル及びポリマーセメントモルタルは、 <u>公的機関における試験において、表 5-8</u> に示す断面修復用モルタルの品質規格を満足しなければならない。試験方法は <u>付属資料 3</u> による。	(3) 断面の修復に使用するセメントモルタル及びポリマーセメントモルタルは、 <u>表 5-8</u> に示す断面修復用モルタルの品質規格を満足しなければならない。試験方法は <u>付属資料 3</u> による。 <u>なお、施工現場での強度発現の確認については、6.4.4 対象コンクリートの検査</u> に定める。

頁	箇所	正	誤																																										
114	表 6-3-3	<p align="center">表 6-3-3 断面修復後の検査項目（現地検査）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>検査項目</th> <th>判定基準</th> <th>検査方法</th> <th>頻度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">断面修復部の 外観状態</td> <td>浮き・ひび割れ・脆弱部がなく、 平滑に仕上がっていること。</td> <td>目視・打診</td> <td>全面</td> </tr> <tr> <td>出隅・入隅部の処理（面取り・R 取り）が適切であること。</td> <td>目視・打診</td> <td>全面</td> </tr> <tr> <td>断面修復部の 接着強さ</td> <td>平均値 1.5N/mm² 以上かつ最小値 1.2 N/mm² 以上であること^{注2)} (1 箇所当りの試験数は 3 個)。</td> <td>付属資料 9 に 示す方法</td> <td>監督職員が指示す る場合</td> </tr> <tr> <td>断面修復部の 施工厚さ</td> <td>平均値が設計厚さ以上であること (1 箇所当りの試験数は 3 個)^{注3)}。</td> <td>ノギス等に よる測定</td> <td>1 箇所/500m² ^{注1)}</td> </tr> </tbody> </table> <p>注 1) 施工箇所毎、並びに、壁、床及び天井等の部位毎に適宜 1 箇所以上測定する。 注 2) 断面修復部の接着強さは、監督職員が指示する場合とするが、協議のうえ、施工と同時に現場で作製した試験板に対し試験することができる。 注 3) 断面修復部の施工厚さは、施工前に木片や発泡スチロール等を躯体表面に取り付け、断面修復材料が硬化した後にこれを除去し、ノギス等で測定する。</p>	検査項目	判定基準	検査方法	頻度	断面修復部の 外観状態	浮き・ひび割れ・脆弱部がなく、 平滑に仕上がっていること。	目視・打診	全面	出隅・入隅部の処理（面取り・R 取り）が適切であること。	目視・打診	全面	断面修復部の 接着強さ	平均値 1.5N/mm ² 以上かつ最小値 1.2 N/mm ² 以上であること ^{注2)} (1 箇所当りの試験数は 3 個)。	付属資料 9 に 示す方法	監督職員が指示す る場合	断面修復部の 施工厚さ	平均値が設計厚さ以上であること (1 箇所当りの試験数は 3 個) ^{注3)} 。	ノギス等に よる測定	1 箇所/500m ² ^{注1)}	<p align="center">表 6-3-3 断面修復後の検査項目（現地検査）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>検査項目</th> <th>判定基準</th> <th>検査方法</th> <th>頻度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">断面修復部の 外観状態</td> <td>浮き・ひび割れ・脆弱部がなく、 平滑に仕上がっていること。</td> <td>目視・打診</td> <td>全面</td> </tr> <tr> <td>出隅・入隅部の処理（面取り・R 取り）が適切であること。</td> <td>目視・打診</td> <td>全面</td> </tr> <tr> <td>モルタル 強度試験</td> <td>現場養生^{注2)} 材齢 7 日以下の供 試体にて 20N/mm² 以上（躯体の 設計基準強度の確認が求められる 場合、材齢 28 日以降の圧縮試験に よる。）。</td> <td>圧縮試験</td> <td>監督員の指示によ る。 1 箇所/500m² ^{注1)}</td> </tr> <tr> <td>断面修復部の 接着強さ^{注2)}</td> <td>平均値 1.5N/mm² 以上かつ最小値 1.2 N/mm² 以上であること^{注3)} (1 箇所当りの試験数は 3 個)。</td> <td>付属資料 9 に 示す方法</td> <td>監督職員が指示する 場合</td> </tr> <tr> <td>断面修復部の 施工厚さ</td> <td>平均値が設計厚さ以上であること (1 箇所当りの試験数は 3 個)^{注4)}。</td> <td>ノギス等に よる測定</td> <td>1 箇所/500m² ^{注1)}</td> </tr> </tbody> </table> <p>注 1) 施工箇所毎、並びに、壁、床及び天井等の部位毎に適宜 1 箇所以上測定する。 注 2) 現場におけるモルタル圧縮強度は、JIS A 7502-2（附属書 J に準じ、JIS R 5201）又は JISA 1108 に準拠する。現場での養生とし冬場強度発現に十分な防寒養生を行う。モルタル圧縮強度は 7 日以下の材齢で 20N/mm² が確認できる場合、材齢 28 日で躯体の設計基準強度 24 N/mm² 以上を満足すると考えられ、次の工程に進むことが出来る。また、修復断面部の躯体コンクリート強度の確認が求められる場合、材齢 28 日以降の供試体において圧縮試験を行わなければならない。 注 3) 修復部の接着強さは、監督職員が指示する場合とするが、協議のうえ、施工と同時に現場で作製した試験板に対し試験することができる。 注 4) 修復層の施工厚さは、施工前に木片や発泡スチロール等を躯体表面に取り付け、断面修復材料が硬化した後にこれを除去し、ノギス等で測定する。</p>	検査項目	判定基準	検査方法	頻度	断面修復部の 外観状態	浮き・ひび割れ・脆弱部がなく、 平滑に仕上がっていること。	目視・打診	全面	出隅・入隅部の処理（面取り・R 取り）が適切であること。	目視・打診	全面	モルタル 強度試験	現場養生 ^{注2)} 材齢 7 日以下の供 試体にて 20N/mm ² 以上（躯体の 設計基準強度の確認が求められる 場合、材齢 28 日以降の圧縮試験に よる。）。	圧縮試験	監督員の指示によ る。 1 箇所/500m ² ^{注1)}	断面修復部の 接着強さ ^{注2)}	平均値 1.5N/mm ² 以上かつ最小値 1.2 N/mm ² 以上であること ^{注3)} (1 箇所当りの試験数は 3 個)。	付属資料 9 に 示す方法	監督職員が指示する 場合	断面修復部の 施工厚さ	平均値が設計厚さ以上であること (1 箇所当りの試験数は 3 個) ^{注4)} 。	ノギス等に よる測定	1 箇所/500m ² ^{注1)}
検査項目	判定基準	検査方法	頻度																																										
断面修復部の 外観状態	浮き・ひび割れ・脆弱部がなく、 平滑に仕上がっていること。	目視・打診	全面																																										
	出隅・入隅部の処理（面取り・R 取り）が適切であること。	目視・打診	全面																																										
断面修復部の 接着強さ	平均値 1.5N/mm ² 以上かつ最小値 1.2 N/mm ² 以上であること ^{注2)} (1 箇所当りの試験数は 3 個)。	付属資料 9 に 示す方法	監督職員が指示す る場合																																										
断面修復部の 施工厚さ	平均値が設計厚さ以上であること (1 箇所当りの試験数は 3 個) ^{注3)} 。	ノギス等に よる測定	1 箇所/500m ² ^{注1)}																																										
検査項目	判定基準	検査方法	頻度																																										
断面修復部の 外観状態	浮き・ひび割れ・脆弱部がなく、 平滑に仕上がっていること。	目視・打診	全面																																										
	出隅・入隅部の処理（面取り・R 取り）が適切であること。	目視・打診	全面																																										
モルタル 強度試験	現場養生 ^{注2)} 材齢 7 日以下の供 試体にて 20N/mm ² 以上（躯体の 設計基準強度の確認が求められる 場合、材齢 28 日以降の圧縮試験に よる。）。	圧縮試験	監督員の指示によ る。 1 箇所/500m ² ^{注1)}																																										
断面修復部の 接着強さ ^{注2)}	平均値 1.5N/mm ² 以上かつ最小値 1.2 N/mm ² 以上であること ^{注3)} (1 箇所当りの試験数は 3 個)。	付属資料 9 に 示す方法	監督職員が指示する 場合																																										
断面修復部の 施工厚さ	平均値が設計厚さ以上であること (1 箇所当りの試験数は 3 個) ^{注4)} 。	ノギス等に よる測定	1 箇所/500m ² ^{注1)}																																										

	箇所	正	誤
124	6. 4. 4	(1) 受注者は、防食被覆工事の専門技術者を立ち合わせ、コンクリートの品質について検査し、不良箇所が認められた場合は、処置方法について監督職員と協議し、 <u>不良個所について責任を負うものが必要な処置を施す。</u> 検査には、対象コンクリートの施工者を立ち合わせることが望ましい。	(1) 受注者は、防食被覆工事の専門技術者を立ち合わせ、コンクリートの品質について検査し、不良箇所が認められた場合は、処置方法について監督職員と協議の <u>うえ</u> 必要な処置を施す。検査には、対象コンクリートの施工者を立ち合わせることが望ましい。
124 ・ 125	6. 4. 【解説】	(1) について 受注者は、専門技術者を立ち合わせて検査を行い、対象コンクリートに不良箇所があった場合は、速やかに監督職員に報告し、 <u>不良箇所の責任を明らかにしたうえで、処置方法について監督職員と協議し、責任を負うものが必要な処置を施す。</u> 例えば、 <u>一つの工事にコンクリート防食被覆工事とコンクリート躯体工事の両方が含まれている場合は、受注者が責任をもって対処する。</u>	(1) について 受注者は、専門技術者を立ち合わせて検査を行い、対象コンクリートに不良箇所があった場合は、速やかに監督職員に報告し、 <u>受注者及び施工者の責任範囲を明らかにしたうえで、処置方法について監督職員と協議し、必要な処置を施す。</u>

頁	箇所	正	誤																																																																																								
F76	様式例 12	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th colspan="2">検査結果</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>断面修復部の 外観状態</td> <td colspan="2"></td> <td>合・否</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">断面修復部 の 接着強さ</td> <td>接着強さ 養生 日後</td> <td rowspan="5"></td> <td rowspan="5">合・否</td> </tr> <tr> <td>試験値 平均</td> </tr> <tr> <td>①</td> </tr> <tr> <td>②</td> </tr> <tr> <td>③</td> </tr> <tr> <td>基準値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>断面修復部の 施工厚さ</td> <td>別紙 監理記録による平均値 mm > 設計値</td> <td>合・否</td> </tr> <tr> <td colspan="4">検査が不合格のときの指示事項</td> </tr> </tbody> </table>	項目	検査結果		判定	断面修復部の 外観状態			合・否	断面修復部 の 接着強さ	接着強さ 養生 日後		合・否	試験値 平均	①	②	③	基準値		断面修復部の 施工厚さ	別紙 監理記録による平均値 mm > 設計値	合・否	検査が不合格のときの指示事項				<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th colspan="4">検査結果</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>修復部の 施工状況</td> <td colspan="4"></td> <td>合・否</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">断面修復材 の 圧縮強さ</td> <td colspan="2">圧縮強さ (N/mm²) 材齢 日</td> <td colspan="2">圧縮強さ (N/mm²) 材齢 28日</td> <td rowspan="5">合・否</td> </tr> <tr> <td>試験値</td> <td>平均</td> <td>試験値</td> <td>平均</td> </tr> <tr> <td>①</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>②</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>基準値</td> <td>以上</td> <td>基準値</td> <td>以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">断面修復材 の 接着強さ</td> <td colspan="2">接着強さ 養生 日後</td> <td colspan="2" rowspan="5"></td> <td rowspan="5">合・否</td> </tr> <tr> <td>試験値</td> <td>平均</td> </tr> <tr> <td>①</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③</td> <td></td> </tr> <tr> <td>基準値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>断面修復 厚さ</td> <td>別紙 監理記録による平均値 mm > 設計値</td> <td>合・否</td> </tr> <tr> <td colspan="6">検査が不合格のときの指示事項</td> </tr> </tbody> </table>	項目	検査結果				判定	修復部の 施工状況					合・否	断面修復材 の 圧縮強さ	圧縮強さ (N/mm ²) 材齢 日		圧縮強さ (N/mm ²) 材齢 28日		合・否	試験値	平均	試験値	平均	①				②				③				基準値	以上	基準値	以上	断面修復材 の 接着強さ	接着強さ 養生 日後				合・否	試験値	平均	①		②		③		基準値		断面修復 厚さ	別紙 監理記録による平均値 mm > 設計値	合・否	検査が不合格のときの指示事項					
項目	検査結果		判定																																																																																								
断面修復部の 外観状態			合・否																																																																																								
断面修復部 の 接着強さ	接着強さ 養生 日後		合・否																																																																																								
	試験値 平均																																																																																										
	①																																																																																										
	②																																																																																										
	③																																																																																										
基準値																																																																																											
断面修復部の 施工厚さ	別紙 監理記録による平均値 mm > 設計値	合・否																																																																																									
検査が不合格のときの指示事項																																																																																											
項目	検査結果				判定																																																																																						
修復部の 施工状況					合・否																																																																																						
断面修復材 の 圧縮強さ	圧縮強さ (N/mm ²) 材齢 日		圧縮強さ (N/mm ²) 材齢 28日		合・否																																																																																						
	試験値	平均	試験値	平均																																																																																							
	①																																																																																										
	②																																																																																										
	③																																																																																										
基準値	以上	基準値	以上																																																																																								
断面修復材 の 接着強さ	接着強さ 養生 日後				合・否																																																																																						
	試験値	平均																																																																																									
	①																																																																																										
	②																																																																																										
	③																																																																																										
基準値																																																																																											
断面修復 厚さ	別紙 監理記録による平均値 mm > 設計値	合・否																																																																																									
検査が不合格のときの指示事項																																																																																											